

令和3年度 東はりま特別支援学校 学校評価結果

実施期間:12月1日(水)～10日(金) 職員・保護者

設問	重点	項目	担当校務部 関連する取組	評価項目	職員評価		保護者評価		成果と課題	外部関係者評価
					昨年度	今年度	昨年度	今年度		
1	こどもの育ちを実感する学校づくり	教育課程 授業改善 生きる力 主体的・対話的深い 学び	(教務部) 各教科等の年間計画作成 学習指導要領に基づく授業計画	児童生徒の発達段階をふまえ、小中高の縦のつながり、連携を考えた授業の充実を図っている。	2.7	3.1	3.3	3.5	知的障害のある児童生徒の特性を理解し、各教科の年間指導計画を立て、各教科等を合わせて指導することで、効果的な指導に繋がった。また、年間指導計画を引き継ぐことで、指導担当が変わっても指導の方向性が保て、系統的な指導、指導の連続性が保つことができた。	【評価できる点】 ・WEB導入で保護者の回答率上昇。より多くの保護者の意見が聞けている。 ・コロナ禍で制約が多い中、職員評価は全項目、保護者評価の6割近く項目の評価が上がっており、学校運営、教育活動の充実に向けて各学部が創意工夫、子どもの学びの考慮、尽力された結果である。 ・保護者の中には「知らない、情報がない」等々ある中、「福祉施設・相談機関紹介」冊子や進路指導部よりなどを配布し情報発信されたことはよかった。今後も続けていきたい。 ・児童生徒個々の自立活動目標シートを導入し、実態と目標設定の確認、支援方法の情報共有をしていることは興味深い。 ・保護者、職員のニーズに応じた情報提供ができるよう、日頃からアンテナを張り、情報共有に努めている。 ・スクールカウンセラーが活用されている。 ・SNSのトラブル発生防止の「情報モラル教室」が実施され、安全な利用について指導がされている。 ・小さな行事や出来事を出るだけブログに掲載、学校通信等を活用して視覚的に学校での様子を伝える努力をしている。 ・指導担当が変わっても方向性が変わらずに系統的な指導が行われている。これが効果として表れている点は素晴らしい。 ・センター的機能を有する学校として教育相談、研修等積極的に実施している。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価において保護者評価が高くなっており素晴らしい。インフォームドコンセント及びアカウンタビリティが果たされているからこそのことである。 ・新型コロナウイルスについて評価できる。
(教務部) 教育活動全般			確かな学力と豊かな心を育むと共に、生きる力を身につける指導に取り組んでいる。	3.0	3.2	3.3	3.2	3つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を指導目標設定の段階から意識した授業作りに取り組んだ。実生活における「生きる力」の定着に向け、地域で生きる児童生徒の将来像を目標に盛り込み、人との関わりを大切に体験と合わせ、心豊かな確かな力の定着に努めていきたい。		
(研究研修部) 授業研究 講師招聘による研修会			児童生徒の実態を把握しつつ、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組んでいる。	2.9	3.1			それぞれの学部で研究授業に取り組み、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組んだ。今年度はコロナ感染防止のため、学部実践交流会を実施することができず、他学部への取組の周知が十分にはできなかった。		
体験活動		(各学部) 校外学習 地域清掃 フェスタ (宿泊学習) 自然体験学習	校内外での体験活動を通して、社会生活を送るうえで必要なスキル(挨拶や交通ルール、公共のマナー)を育てている。	2.7	3.0	3.4	3.4	コロナ禍前のように実施するのはまだ難しいが、実施場所や実施方法を工夫しながら、様々な体験学習ができるよう取り組むことができた。次年度も、感染状況を見ながら、生活に結び付く体験活動が実施できるように模索していきたい。		
		(総務部) 学校行事 学部・学年行事 学級活動	児童生徒の実態を踏まえ、行事の内容を検討し活動の充実にも努めている。	3.0	3.2			昨年度のように全てを中止するのではなく、感染対策を行いつつ、実施内容や人数制限を行うこと等を検討し、できることは実施した。来年度は今年度よりも更に活動できるように努めていきたい。		
6		教員の専門性	(研究研修部・支援部) 研究授業 初任者校内研修 校内教員による研修会 スクールカウンセラーによる研修会	授業研究や専門家に学ぶ機会を設け、特別支援教育の専門性向上に努めている。	2.9	3.2			後期のスクールカウンセラーによる研修会では、感染対策として参加者を3教室に分けた上でTeamsを利用して研修の様子をリアルタイムで動画配信して実施した。また、教材づくりのワークショップも開催し、実践につながる研修として好評であった。	
7	情報教育 ICT活用		(情報部) 情報研修 ICT(タブレット端末・電子黒板)活用授業	ICTに関する研修により、知識や活用の幅を広げると共に、情報モラルについても指導している。	2.8	3.0	3.1	3.2	本年度は、情報セキュリティやオンライン学習に関する職員研修を行った。来年度は、ICT機器の有効な活用方法の紹介を行う研修を重点的に実施し、児童生徒の学びにつなげていきたい。	
8	いのちと人権を大切に する学校づくり	道徳・人権教育	(総務部) 教育活動全般 道徳	生命や自分を大切にすること、他人を思いやる心を育てる視点を意識し、教育活動に取り組んでいる。	3.0	3.1	3.3	3.3	今年度もコロナ禍のため、地域活動(老人会、近隣の学校)でのグラウンドゴルフは2年連続実施できなかった。スポーツフェスタでは、集団生活でのルールや規則を守りながら、仲間と一緒に活動できた。	
9		健康、食育	(保健部) 食育 保護者との連携、給食指導	健やかな体づくりに向け、栄養教諭・保護者と連携し学校教育全般を通して食育に取り組んでいる。	3.2	3.4	3.5	3.6	食に関するアンケートを家庭に実施した。結果からは、朝食の大切さを感じるものの朝食を欠食している家庭も20%程度あるということ等も把握できた。これらを踏まえて食に関する授業等を実施するとともに、様々な場面で保護者と連携を取り、食や健康に関する意識の改善、向上に努めていきたい。	
10		防災 危機管理対応	(管理図書部) 状況(火災・地震・津波)を想定した訓練 不審者対応訓練・校内研修(警察署員招聘) 引き渡し訓練	児童生徒引き渡しマニュアルを新たに作成、保護者配布および訓練の工夫改善、校内研修を行う。また、他の防災マニュアルについても随時見直し、危機管理体制の充実を図っている。	3.0	3.3	3.5	3.6	避難訓練では全体的に落ち着いて避難することができた。不審者対応研修会によって、不審者への実践的対応について学びを深められた。警察からの指導・助言をマニュアルに組み込んでいきたい。引き渡しマニュアルを保護者へ配布し、教員の引き渡し訓練を実施した。今後は、保護者参加の引き渡し訓練を実施していきたい。	
11		いじめ 生徒指導	(生徒指導部) いじめ防止基本方針	いじめ防止基本方針に基づき、人権意識を高く持ち、児童生徒の望ましい人間関係の育成に努めている。	3.1	3.2	3.3	3.4	いじめの未然防止を重視し、仲間づくり活動や情報モラル教室を実施するなど様々な教育活動の中で取組を続けている。また、高等部での始業前の教室巡回指導、生活アンケートや個人面談を実施することで、常に子どもたちに教師の目が行き届くような体制をとっている。	
12		個人情報保護	(情報部) 個人情報の管理 USB等によるデータ管理の遵守 取り扱いファイル規定に基づく情報管理	個人情報保護の観点に基づき、児童生徒や保護者に関する情報など、情報の管理を適切にしている。	3.2	3.4	3.5	3.5	県教育委員会の定める情報セキュリティ規定を満たした校内規定を作り、運用を開始した。児童生徒の個人情報については担当学部の教師のみが閲覧可能になるようにセキュリティを強化した。また、USBメモリへデータを移す場合は暗号化処理が必要となるように設定されている。	
13		個別の教育支援計画	(支援部) 個別の教育支援計画の作成 目標の共有・連携・実態把握 合理的配慮の合意形成	本人・保護者の願いに基づき、合理的配慮の合意形成を踏まえた目標を設定し、達成に向けて取り組んでいる。	3.1	3.2	3.6	3.7	今年度は個別の教育支援計画の評価について、評価の観点や例文を具体的に職員で共通理解を図った。その結果、評価の観点も明確になり、PDCAサイクルの質が向上し、より児童生徒の実態に合った支援計画の立案につながった。	
14	個別の指導計画	(教務部) 年間指導計画 個別の指導計画 明確な評価と見直し	「年間指導計画」に沿って、合理的配慮を踏まえた「個別の指導計画」の作成と見直しを行っている。	3.0	3.2	3.5	3.7	授業の年間計画を立案・引き継ぐことで、授業数が少なかった令和2年度の学習内容を令和3年度に補充・補填することができた。系統的な授業計画を基に教科毎に個々の実態に合わせた目標と支援方法や手立ての設定が行え、効果的な学習指導と評価ができた。		
15	信頼に 応える 学校づくり	キャリア教育	(進路指導部) キャリア教育発達段階表	個々の課題解決に向けてキャリア教育発達段階表を意識した授業を実践している。	2.9	3.0	3.2	3.4	進路指導部として小中学部に対してキャリア教育発達段階表を活用した学習案の提案はできていないが、各学部で「はたらく意欲」を育てる学習は行っている。その学習内容をキャリア教育発達段階表に合わせた実践にしたい。	
16		進路指導 保護者支援	(進路指導部) 保護者向け進路研修会、見学会 進路懇談会(高)	福祉や労働などの関係機関と連携し、本人・保護者の願いに寄り添った継続的な進路指導に取り組んでいる。	2.9	3.3	3.2	3.3	高等部については、本人や保護者の願いに寄り添った進路指導ができた。一方で、教師の思いと保護者の思いが乖離するケースもあった。引き続き保護者の思いを丁寧に聞き取り、本人・保護者・教師が納得し連携できる進路指導を行いたい。小中学部の保護者向けの見学会、全校対象の福祉勉強会をPTA研修部と一緒に実施することができた。	
17		進路指導 保護者支援	(進路指導部) 進路説明会 保護者懇談・相談	進路説明会等を実施し、早期より保護者に卒業後の生活に向けて情報提供ならびに意識啓発を行っている。	3.0	3.4	3.2	3.2	施設・事業所一覧冊子の作成、進路指導部より、見学会や体験会・研修案内などで情報提供を行った。どうしても高等部生徒・保護者・教師対象の情報提供になりがちであったため、小中学部中学部の児童生徒・保護者・教員のニーズを把握して情報を提供する必要がある。また、ホームページも有効に利用したい。	
18	連携 (職員)	(各学部) クラス・学年・学部・学部長会・各種委員会による情報共有	児童生徒の個々の課題に対して、担任・学年・学団・学部等で各会議をもち、情報共有を図っている。	3.1	3.3			学年会や学部会を通して、児童生徒の個々の実態や支援方法等について、情報共有を行っている。多くの職員からの多角的な視点で児童生徒の成長を見守っているよう、今後も様々な場での情報共有を大切にしていきたい。		
19	センター的機能	(支援部・総務部) 公開研修会 オープンスクール 高校Coとのネットワーク会議 地域特別支援担当者会への出席 教育相談(就学前、小中高校への案内配布)	教育相談や研修会、各種連絡会により、他機関や地域の施設・学校との連携を深め、センター的機能としての役割を推進している。	2.8	3.1			コロナ禍により、公開研修会は実施できなかった。高校コーディネーターとのネットワーク会議への参加や、知的特別支援学校コーディネーターとの会議をリモートで開催し、情報交換の機会を設けることができた。地域の学校園からの相談に年間を通じて70件以上応じ、研修会では障害理解について生徒、教員、保護者に伝えることができた。		

20	信頼に 応える 学校 づくり	(総務部・情報部・各学部) 学校新聞 学部・学年だより PTA新聞 学校ホームページ・ブログ オープンスクールの実施	学校ホームページや紙面などの方法で効果的な情報発信 を行い、地域や保護者に対して、本校教育への理解啓発 を進めている。	3.0	3.2	3.2	3.4	保護者が来校する機会が減ったため、小さな行事やできご とについてはできるだけブログにあげるようにした。通信は 年間で計画的に出している。学年や学級通信等を通じて視 覚的に学校での様子を伝えるようにしている。	【改善についての提案】 ・今まで通りの学校経営で十分だが、コ ロナ禍における臨時休業時や夏休みな どの長期休み期間については、福祉事 業所だけでは限界がある状況になっ てきている。教育と福祉の連携で乗り越 えることのできる新しいシステムづくりがで きればと思う。 ・コロナ禍で保護者が学校に行く機会が 減った事により学校と疎遠になっている PTAと協力して少しでも学校に親しむ機 会をもうけてはどうか。 ・播同協は、東はりま特別支援学校を 知ってもらうためには格好の場所だと思 う。播同協との繋がりを深めて行っては どうか。 ・コロナで保護者が学校に行く機会が 減った事により学校と疎遠になっている PTAと協力して少しでも学校に親しむ機 会をもうけてはどうか。 ・非常食など備蓄している 物品などの紹介をもって学校の取 組について発信し、保護者の災害時の 意識を喚起してはどうか。 ・保護者評価が落ちてきている点につい ては広報・説明の問題と思われる。せつ やく実践されたことが伝わっていないと考 えられるのももったいない。
21	働きがいのある 職場づくり	(管理職) 定時退勤日の推進 業務改善	勤務時間の適正化に向け、業務改善や意識改革に取り組 んでいる。	2.7	3.0			グループウェア(情報共有のためのWEBサービスソフト)の 掲示板を活用して、毎週水曜日に定時退勤日であることを 周知。また、学校長主導の下、昨年度の課題点に対し、各 学部、校務部に業務改善案の提出を依頼し、具体的な対応策 を考える段階まで今年度進めた。次年度は、その対応策に 取り組み、その効果を検証したい。	
22	開かれ つながる 学校 づくり	(支援部) 外部機関や専門家との連携 拡大支援会議 主治医訪問	児童生徒の個々の課題について、家庭・外部機関と協力・ 調整を図り、情報を共有して課題解決に取り組んでいる。	3.0	3.2	3.2	3.2	外部講師の活用が進み、利用希望者が増えた。児童生徒 の状況に応じたマッチングによって、より充実した専門家と の相談の機会を設けることができた。主治医との拡大支援 会議なども実施し、家庭、教育、福祉、医療で連携して取り 組むことができた。	
23	家庭との 連携	(総務・教務・支援部) 家庭訪問 個人懇談会 教育支援計画・指導計画の手立ての合意形成	児童生徒の個々の課題について、懇談会等を通して保護 者と確認共有し、課題解決に取り組んでいる。	3.1	3.3	3.5	3.4	新転入生の家庭訪問は個別懇談に変更して実施し、必要 に応じて個々の居住地の環境を確認した。懇談時に保護者 と目標の確認や手立てを相談することで、保護者との有益 な情報交換と連携が図ることができた。家庭環境を確認す る上で、新転入生の家庭訪問は感染状況にもよるが実施 したい。	
24	新型コ ロナ 対応	(保健部) 健康観察票の提出 感染防止対策の徹底(マスクの着用、手洗いの徹底) 施設設備の消毒 人との距離(ソーシャルディスタンス)の指導 給食指導(黙食)	新型コロナウイルス感染症対応マニュアルに基づいた対応、保護 者への情報提供を行っている。	3.2	3.4		3.6	校内での感染拡大を防止するため、マニュアルに沿った感 染症対策を今年度も日々徹底してきた。また、学習の場面、 給食指導の場面等の感染予防策について、発信と必要な 物品についての提案、物品の補充点検を常時行った。	
25	家庭学 習支援	(管理職・各学部) 家庭での学習課題の提供 電話による児童生徒の状況聞き取り	新型コロナウイルスによる臨時休業等に対応し、個別の 学習課題を準備している。また、日頃から連絡帳や電話等 により、保護者との連絡を密に行っている。	2.7	3.4		3.5	突然の休校に備えて、各学年2週間分の課題を個人ごと に準備している。また、高等部の一部生徒はTeamsによるビ デオ会議を学校で体験したが、活用には至っていない。	
まとめ	<p>今年度は、Office365のFoamsのアンケート機能を活用し、WEB回答を導入して職員・保護者とも学校評価を実施した。保護者には学校メール未登録の家庭があるため、紙面とメールの両方で依頼をした。保護者の回答率は90.4%(令和2年度)から95.5%に上昇しており、特に、高等部の保護者の回答率が84.8%(令和2年度)から11.2ポイント高い96.0%に上昇した。また、職員の回答率は100%を達成した。WEB回答は、スマートフォンからすぐ回答でき、多くの意見を反映できる手段であることは評価できる。</p> <p>また、職員評価は、25項目すべて昨年度より0.1~0.4ポイント上回り、保護者評価は19項目中10項目において0.1~0.2ポイント評価が上がっている。保護者評価については、「できている」「ややできている」を合わせると、ほぼ85~90%と高評価を得た項目が多く、本校の教育活動に対して一定のご理解をいただいたと感じている。今年度は、スポーツフェスタや校外学習など、内容や規模を縮小しながらも実施できた行事、教育活動が昨年度より増えており、保護者の理解、評価につながったと思う。</p> <p>一方で、職員評価と保護者の評価とに差が見られた項目として、ICT活用、進路指導、センター的機能があげた。ICT活用については、職員の90%が活用できていると評価しているが、保護者の20%は活用できていないと評価しているように、職員と保護者との評価の差がある。参観日やオープンスクールが実施できず、実際に授業において職員が活用している場面を見ていただく機会が無かったことも要因として考えられる。進路指導、センター的機能についての項目は、保護者が進路や支援についてどんな情報を知りたいのかを掴むこと、そして、ホームページ等を活用して本校の進路指導の取組やセンター的機能として担っている取組を広報活動する必要性を感じた。また、人権教育については、職員評価、保護者の評価とも他項目より「できていない」「ややできていない」と回答している率が高く、10人に1人は問題意識を持っており本校の課題であると捉えている傾向が見えた。</p> <p>保護者の記述の中には、本校に対する励ましがあれば、厳しい意見もあった。表現の中に埋もれている本心に伝えたい内容の理解に努めるとともに、職員、学校に対する期待も含まれていると受けとめている。今回の学校評価結果を受け、今後どのような取組が児童生徒の成長や自立につながるのか、コロナ禍で縮小している「開かれ、つながる学校」づくりを今後どのような形で実施していくのか、課題と内容の精査と整理を行い、児童生徒の自立と社会参加の一助として次年度も本校の教育活動に邁進していきたい。</p>								

